

和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要資料集

紀州藩家老三浦為時御用日記 下卷

上村 雅洋 編

史料目次（下巻）

凡例

四九	御用番留帳	寛文九年四月一三日～九月一四日	1
五〇	江戸出府日記	寛文九年九月一四日～晦日	43
五一	江戸出府日記	寛文九年一〇月朔日～晦日	47
五二	江戸出府日記	寛文九年閏一〇月朔日～二九日	59
五三	江戸出府日記	寛文九年十一月朔日～晦日	66
五四	江戸出府日記	寛文九年十二月朔日～二九日	75
五五	江戸出府日記	寛文一〇年正月朔日～二九日	84
五六	江戸出府日記	寛文一〇年二月朔日～二九日	96
五七	江戸出府日記	寛文一〇年二月晦日～三月一八日	108
五八	御用番留帳	寛文一〇年三月一八日～七月二九日	115
五九	御用番留帳	寛文一〇年八月朔日～二月晦日	144
六〇	御用番留帳	寛文一一年正月朔日～四月二九日	189
六一	御用番留帳	寛文一一年五月朔日～二月晦日	224
六二	御用番留帳	寛文一二年正月朔日～閏六月晦日	266

v

六三	御用番留帳	寛文一二年七月朔日～二月晦日	304
六四	御用番留帳	寛文一三年正月朔日～七月晦日	330
六五	御用番留帳	寛文一三年八月朔日～二月晦日	370
六六	御用番留帳	延宝二年正月朔日～二月晦日	404
六七	御用番留帳	延宝三年正月朔日～二月晦日	459
六八	御用番留帳	延宝四年正月朔日～一月八日	534
六九	江戸出府日記	寛文二年三月二六日～四月二三日	580

あとがき 585

凡 例

一本史料は、和歌山大学紀州経済史文化史研究所蔵の紀州藩家老三浦家文書であり、そのうち三浦家二代当主為時の寛文元年から延宝四年までの御用日記をほぼ年代を追って翻刻し、書名を「紀州藩家老三浦為時御用日記」とした。三浦家文書については、『和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要』第四号（一九八四年）所収の「紀州藩家老三浦家文書目録」を参照されたい。

一「紀州藩家老三浦為時御用日記」は大部なため、寛文元年六月～同九年四月を上巻、同年同月～延宝四年一月を下巻に分割し二分冊とした。同史料は、「紀州藩家老三浦家文書―江戸出府日記・御用番留帳―」として、『和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要』第一六号（一九九六年）～第四二号（二〇〇二年）に、寛文一一年四月分まで逐次翻刻してきたが、本書では、それを再度校訂し直し、合わせて為時存命の延宝四年まで引き続き翻刻した。

一史料名は、できるだけ「紀州藩三浦家文書目録」を踏襲した。ここでは、「江戸出府日記」「江戸在府・帰国日記」「御用番留帳」「留帳」などと記されていたが、内容的に大きな違いがないため、本書では大きく折本は、「江戸出府日記」、縦帳は「御用番留帳」に統一して表記した。

一使用字体は、常用漢字を用い、それ以外は、異字・俗字・略字もなるべく原文のままを尊重した。